

# 柿

東京女高師助教諭 大 岩 金

裏の畑の柿の木にも鳥が訪れる氣候になりました。秋の果物と申せば先づ柿を思はせます。苹果の紅に葡萄の琥珀色に熟したものはまだしみくと秋を思はせるまでにはゆきませんでせう。

今回は方面を變へまして原産が東洋であり、特に我が國が最も栽培に適して居り、栽培區域も他の果物に比べて廣く南は九州の端から北は青森に至るといふ我が愛好する柿に就て少し申し述べてみやうと思ひます。

柿は前に申しました如く、唯單に秋を思はせるといふ感傷的な方面のみでなく是をよく玩味することによつて益々その眞價を認めることが出來ま

して諸種の果實中相當貴重な位置を占めて居ると存じます。

左に柿の長所と思ふ節を列擧してみますれば、

- 一、土地にあまり適不適のないこと。
- 二、樹齡の長いこと。
- 三、病蟲害にかゝることの少ないこと。
- 四、葉の紅葉したのが美しいこと。
- 五、實のおいしいこと。
- 六、觀察させる時間も連續してゐるし、又多方面であることなどであります。

こゝに一つ短所とみるべきものは枝が割合に脆くて折れ易いことであります。反對には果實を

採集する時に好都合であります。

私共はこの日本固有の柿を充分に優良な果物として種々の方面に利用致しまして、子供達にも秋の果物と云へば、第一に柿を思ひ出させる位にしたいものと存じます。やゝもすれば、柿は不消化で子供には絶對に與へてはいけないなど聞くこともありますが、是はもはや過去のことでありまして、現今では科學及び化學の進歩に伴ひ我が柿に於ても優良な品種が澤山出來まして、不消化等のことはないばかりでなく、反つて食物の消化を助けることが少なくないときさへいはれて居ります。即ち著聞集に「霜おけるこねりの柿はおのづからふくめば消ゆるものにぞありける」とよんで古くから珍重せられたものでありますが、今となつては尙更のことであります。但し未熟なもの、傷の付いたもの、新鮮でないものなどの場合には腹痛下痢などを起すことがありますのは申すまでもあ

りません。

### 氣候と土質

柿は性質が嚴寒を厭ひますので、北海道のやうな所は是の栽培に適しませんけれど内地では到る所によく生育するものであります。

土質も他のものに比べまして好悪が少なく、ほとんどのんな場所にも育ちます。只生育の状態や結果の數量や、品質等の上に影響することはまぬかれません。それ故に適地と申しますれば砂礫の交つた、排水のよい、肥沃な土壤にこしたことはありません。しかし家族本位の庭と致しまして、一趣味と實用とを兼ねた庭園樹木の一種として、二本を植ゑますやうな場合にはさして場所をえらぶ程のことはありません。特に一二年性草花などゝ異なりまして年と共に段々に丈高くなりますから始めの内は少しは日かげになつて居りましても次第に日にも當るやうになりますので、日かげの

ために枯れてしまふやうなことはありませんから  
まづ木の高さも相當に大きく育てると致しまして  
垣根の一隅とか後庭などに植ゑておきまして、所  
謂柿の鈴成りをめぐるやうにあしらつてはいかゞ  
なものかと存じます。

### 品 種

柿は古くから我が國で栽培して居りましたもの  
でありますから従つてその品種も誠に多く、數百  
千にのぼつて居りますが、中には地方によりまし  
て異名同種のものもあります。そして先づ大別致  
しまして是を甘柿種と、澁柿種とに分けるのであ  
ります。しかし青森などの如く柿の成熟期になつ  
て大變に寒くなるやうな場所に栽培致します時は  
甘柿でも、完全に脱澁しないことがあります。さ  
て私共はそのいづれをえらんだらばよいでせう  
か。前地方に於けるが如く甘柿を植ゑましても脱  
澁しない所は別と致しまして、どちらでもの栽培

に適して居ります所でありますならば甘柿にした  
方がよいかと思ひます。それも家族が大人ばかり  
であるならば強ひての問題ではありませんが、子  
供本位に植ゑますならば、子供は花が咲きまして  
から收穫する迄にはどんな長い思ひで待つ事でせ  
う。色がつき初めてからでも容易な辛胞ではない  
だらうと思ひます。「お母様いつになつたら食べら  
れますか」の催促もよもや、一度二度ではすまな  
いだらうと思ひます。それにやうやくもぎとつた  
赤い實がまだくこのまんまでは食べられないや  
うではもうこれまでの柿に對する興味は半減され  
る位のものではないかと思ひます。只今はその意  
味で、甘柿種の優良な品種と認められて居るもの  
の内の二三種に就て少し記しておきます。

#### 一、甘柿種

#### イ、富有

#### 果形 扁圓

色 紅色

重量 六七十匁乃至百匁

果肉 黄赤色で褐斑はない。

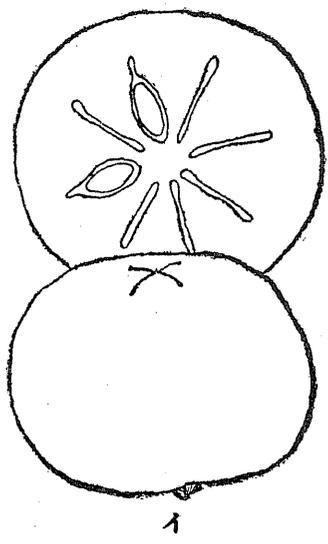
味 水分が多くて高尚な甘味がある

又食べて残滓を止めない

熟期 十一月頃

樹勢 丈夫で豊産である。

富 有 (二分ノ一實物大)



ロ、御 所

果形 扁圓で其の四邊に微かな四條の凹

所がある。

色 紅色

重量 四十匁内外

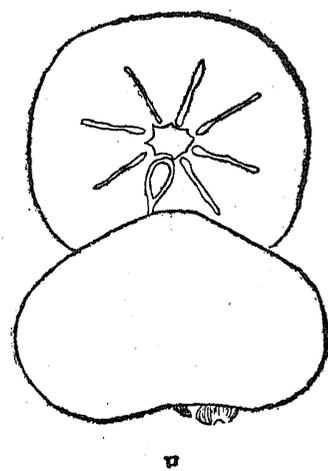
果肉 淡黄紅色で褐斑はない種子も少ない

味 風味がよい

熟期 十一月頃

樹勢 丈夫で豊産である。

御 所 (二分ノ一實物大)



ハ、次 郎

果形 扁圓で浅い縦溝がある横断面はやゝ

方形である。

色 紅 色

重量 七八十匁

果肉 微黄白色で褐斑は極めて少ない

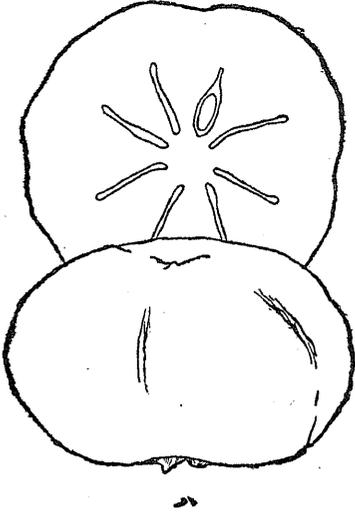
味 柔軟で種子も少ない

熟期 甘味が強い

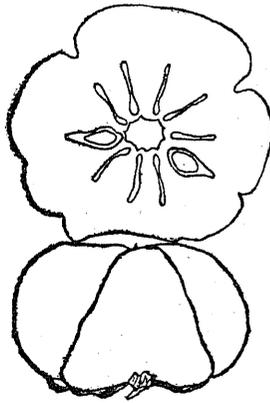
樹勢 十月下旬

次 丈夫で豊産である。

郎 (二分ノ一實物大)

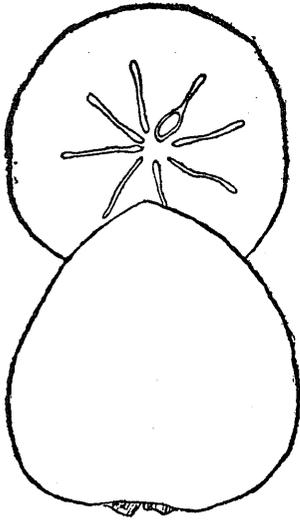


その他東京地方で最も多い、而も甘柿の先驅を  
しますもので禪寺丸と申しますものが早くも十月  
中下旬には枝もたわゝに秋の小春日和にてりかじ  
やきます。枝ごと束ねて店頭に吊してありますの  
はこの種類が多いのであります。尙この外に普通  
に目につきますものに四谷ヨシタニ、甘衣紋など申すのが  
あります。



谷 四

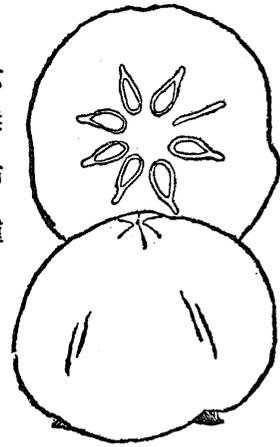
(大物實一ノ分二)



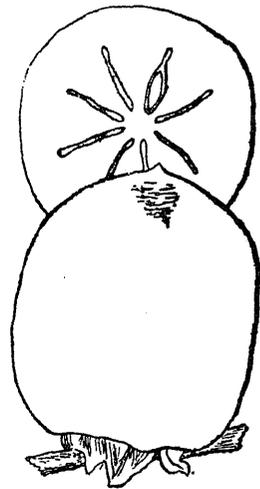
富士 (二分ノ一實物大)

澁柿種の中で最も優良なものとして知られて居りますのは、富士と蜂屋でありませう。尙不<sup>モシ</sup>身知<sup>ラズ</sup>、横野柿、西條なども相當に有名なものであります。

二、澁柿種



紋衣甘  
(大物實一ノ分二)



蜂屋  
(大物實一ノ分二)

(本文中の圖は「園藝叢書柿栗栽培法」に依る)

柿としての妙味は是等の澁柿を脱澁致しまして味はふ所に存するかとも思はれます點がありますからその簡単な樽拔きの方法を記しておきます。

普通には酒の空樽の新らしいものゝかじみを打抜き此の中に澁柿を丁寧<sup>テイネイ</sup>に並べて段々<sup>ダンダン</sup>とつみ重ね後にかじみを舊の如く<sup>カク</sup>箆<sup>ヘラ</sup>め目張<sup>メヂ</sup>りをして、之を室内の温暖な所におくのであります。かく致しまして七八日もたちますれば全く脱澁するのであります。けれども之に要します日數は柿の品種や、熟度等によりまして一様ではありません。

栽培法

## イ、苗木に就て

柿樹は通常實生によつて砧木を作り、之に接木をするのであります。接木は多く居接といつて、砧木を適當の場所に植ゑておき是を掘りとらないで、接木するのであります。柿にこの方法をとりますのは、柿は莖や根の發育が割合に緩慢でありますから、是を掘りあげなど致しますれば根を痛め従つて養分を吸ひあげることゝ困難になりますためひいては活着が悪いといふことになるのであります。それで私共素人が致しましてはなかく、柿の接木はむづかしいものでありますから接木の練習をしようと思ふのならばともかく、柿の苗をと是非望みますならば確かな種苗店から求めた方が安全で却つて經濟かと存じます。即ち一本十五錢位も出しますれば、富有でも、次郎でも求められます。普通には桃栗三年、柿八年とはよく聞きふるした言葉ではありませんが、接木した苗であり

ますと四五年目にはそろ／＼一つ二つと實を結ぶものであります。小さい木にこの數少ない、赤い實は又一段と秋の風情をそへるでありませう。

## 剪 定 法

私共は柿を庭に植ゑまして、實を得ますと同時に是によりまして少しでも庭の裝飾となり、子供の美的感情を養ふ助けとなれば、それがなによりだと思ひます。それ故にさして面倒な整枝や、剪定はしなくとも家人の好みによつて樹形を整へてゆけばよいのであります。一通りの剪定法を述べておきます。それによりまして少しでも、よりよい實を年々收穫することが出来まして新鮮な上に家族の手によつて得られました、果物を食膳に上せますならば、又一家の和合團圓の助けともなりませう。

柿は隔年結果をするのが普通であると考へられて居るのでありますが、是は即ち剪定をしないで

放任しておくからであります。それには先づ結果の習性から申さなければなりません。

柿の果實は本年發生の新梢中發育のやゝ盛んなものに結ぶものでありまして、此の新梢は自然の場合には、前年發生した枝の頂芽と是に次ぐ二三の腋芽の伸びたものであります。そして、本年結果致しました枝は果實のために樹液を澤山に消費致しますために、この果枝上の芽は翌春は發育致しません。結果枝とはならないのであります。それ故に本年結果致しました枝は短かく剪定し、本年結果しなかつた枝にある芽を丈夫に發育させるやうにするのであります。そのために柿に限り枝ごと折れと申しますのは自然に剪定の理に基いて居るのであります。

## 施 肥

従來は特別に肥料など施しては居ないやうでありますが出来ますならば、一年一回丈でよいので

ありますから、二月から四月頃までの間に他の庭木に施肥する、その序に施してほしいものであります。その最も得易いものを紹介致しますれば、窒素肥料として人糞尿、磷酸肥料として米糠、加里肥料として藁灰を用ひればよいのであります。そして施し方は、是等のものをよく混交致しまして、幹の太さの三四倍の直径の圓を幹の周りに一尺幅位に、深さ五六寸に掘りました中に入れ、又その上を覆土しておけばよいのであります。是を草花栽培の施肥に比べますれば極めて簡單であります。

## 幼 兒 と 柿

先づ柿につきましては、草花のやうに下種してやがて發芽し二葉の頃から「これなー」と聞かれて「これはきれいなお花が咲くのですよ、ふまないで大事にしてやりませう、今にきれいな、お花が咲きますよ」と云つた具合にその年、直に開花

をみる事が出来ませんから、種子の下種から順次に直観させる事は困難かと存じますが、私は落花の頃から是を利用したらどうかと思ひます。即ち開花は五月中下旬でありますから、その頃は氣候といひ、日あしの長いことから申しましても幼児は常に戸外にあつて、なにか遊びごとの材料を求めて居るのであります。それ故に砂場に遊んで飽き、ぶらんこ、おすべりなども一通り終つて、次にはお散歩、それも餘程つかれて、しばらく木蔭にいはんと致します時柿の葉かげにでも集ひまして以下に述べますやうな、お遊びは如何なものでありませうか。

花から申しますと、色こそさまで人目を引く程のものでなく、淡黄、白色、の筒状花であります。が満目に散つてゐる柿の落花には自ら目を止めずには居られませんでせう。是を休みながら拾ひ集めて散歩の途中、或はそのあたりでとつたクロー

バヤ、その他の雜草にとほさせてもよいでせう。又各々に柿の葉を一枚づゝも與へますならば、これこそ器の代用になりませう。とやかく指圖しなくてもこの落花の場所に伴れる丈で、子供等は嬉々として夫々の遊びをすることゝ思ひます。或は是をお土産にするものもありません、或は又之を首飾りにして遊び、腰に付け、或は帽子飾りになど様々であります。かくするうちに柿の花に就ての觀念もおぼろげながら、何物かをにぎることが出来ませう。そして又之に興味を持ちます時は又々この木かげによる事を一つの樂しみとし、折々來る毎に或は雌花の下部の子房がふくらんだのに氣がつき「これなー」ときくものもありません。やがて後には實になつて落ちませう。青い小さい柿の實、これこそ幼児にもたとへられませう。柿の赤ちゃん、これも又何かのお遊びの材料になると思ひます。おまゝごとにも用ひられませう。

お砂場遊びの實さがし代用にもなりませう。こうした青い實も段々と日のたちますにつれて、次第に大きいのが落ちるやうになります。そして、數が少なくなつて參ります。とやかくするうちに暑いく土用もすぎ、初秋ともなり日あしは以外にも早くまたしく間に、秋ももしくなになつてしまひます。鎮守の森も色づいて參ります。春の花時から待ちに待つた柿の實もやうやく熟しました。手に手をとつてのお散歩、今度こそは葉ごしにもれる太陽の光りをあびながら、猿かに合戦のお話しなど聞かせてやりますならば、尙一層興味あることと思ひます。又春から初夏にかけては草花の多い時でありますから、お遊びの材料にも自然その方の供給が多かつたことと思ひますが、秋も更けるに従ひ、段々數少なくなりませう。この時に色も美事な形も簡單な而も、本邦原産の柿これこそ眞に、子供に與ふべきものでなくてはなりません。

い。手にした子供は曾ての日にあの花であつたものが、今日は、こんな立派な實になつた、うつりゆく自然の妙理に自らおどろかされるであります。形の簡單なこの柿は先づ、見て塗り繪のお手本にならないでせうか。先生が形をかいて下さらなくても、寫生が出来さうに思へます。色もチョコでぬれませう。又粘土細工でも作れさうです。こうして終りに切つておまゝごとなど、子供に縁の少ない私が考へます。以上にまだ、利用される所が多々あることと思ひます。